喜楽苑だより 下町～ほんわか通信～

特別養護老人ホーム
地域サポート施設 喜 楽 苑
〒660-0807 尼崎市長洲西通２丁目８番３号
TEL：06-6488-9287　http://www.kirakuen.or.jp

喜楽苑地域ケアセンター
あんしん２４
〒660-0806 尼崎市金楽寺町２丁目７番７号
TEL：06-4868-5525

2025 年 新年発行
第 263 号

Instagram

昨年は3年ごとに見直される介護報酬の改定年でした。介護業界はコロナ感染、人手不足、物価高騰による厳しい経営環境下にあり、２０２４年度（１月～10月）の倒産件数は１４５件と過去最多となりました。なかでも介護報酬がマイナス改定となった訪問介護は深刻なヘルパー不足と運営コストの上昇等により倒産件数が増えました。訪問介護以外にも当法人が運営する拠点施設のエリアで複数の小規模事業所が閉鎖し、過疎地域では医療と介護のサービスが不足するなど、住み慣れた地域での生活継続が困難な状況がみられます。

これから日本では現役世代人口がさらに減少し、２０３５年には約２９７万人の介護人材が不足、２０４０年には６５歳以上の高齢者が全人口の３４・８％に達すると見込まれています。当法人では事業継続のためにスケールメリットを活かした運営・経営に取り組んでいますが、人材確保は年々困難な状況にあり、外国人の採用を積極的に行っています。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

社会福祉法人きらくえん　理事長　土谷千津子

また、ＩＣＴ（情報通信技術）の活用により利用料請求書のペーパレス化と事務業務の省力化に取り組んでいます。何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い致します。

本年は阪神淡路大震災から30年を迎えます。私は震災後に開設した「高齢者・障がい者地域型仮設住宅」から福祉の仕事に就きました。あれから30年。国内外では大規模災害が頻発しています。災害から大切な命を守るために、震災の記憶と教訓を次世代に継承し、自治体とも連携しながら防災と減災に取り組んでいきたいと思います。

本年が皆様にとりまして素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げます。

２０２５年元日

あれから 30 年　阪神・淡路大震災を振り返って

1995 年 1 月 17 日午前 5 時 46 分。突然激しくベッドを揺さぶられました。真っ暗の中で何が起こっているのか理解することができず、ただただ目を瞑ってベッドから振り落とされないようにしているのが精いっぱいでした。しばらくすると空が徐々に明るくなってきたので、だんだんと周りの様子が明らかになってきましたが、そこには信じられない光景が広がっていました。完全に倒壊した家やビル。倒れてきている電柱や木々、道路はアスファルトが大きくひび割れて通ることができず、これは町が完全に壊れてしまった。そんな印象受けました。近くの小学校に避難することになりましたが 1 月の寒い日だったので身体が震えました。ぐちゃぐちゃになった家の中からなんとか布団を見つけ出しました。寒さと余震の不安の中で、家族で重なりあうように眠りにつきました。避難所で一番困ったのがトイレ問題。避難所のトイレは汚物があふれ出し、どこもひどい状態になっていました。そんな中、数日たつと避難所では炊き出しが始まりました。当初、避難所では食事を配ってくれていましたが、冷たいものばかりだったので、久しぶりに温かい豚汁を食べた時のおいしさは今でも覚えています。ニュースを聞き、全国からかけつけてくれたボランティアや地元の学生ボランティアには本当にお世話になりました。

「震災を忘れない」この言葉は地震の恐ろしさや防災・減災について考えたり備えたり伝えたりするのはもちろんですが、あの時、町が壊れ、家族や友人と離れ離れになり、誰もが絶望を感じる中で、近所の人やボランティアの人、自衛隊の人、皆で助け合った。誰もがとっても温かく優しくかった。助け合いの心に本当に救われた。この気持ちをこれからも絶対に忘れないようにしたい、後世にも伝えていきたいと思いました。

インタビュー：M・E さん
（あんしん２４デイサービス）

『食満の新幹線高架橋落下現場』
震災当時の写真は
尼崎市立地域研究資料館提供

『避難所のひとつとなった
武庫北小学校体育館』
藤原隆彦氏　撮影

喜楽苑で『地域防災訓練』が行われました。

10 月 27 日（日）

今回は「南海トラフ地震」が発生の想定です。

阪神淡路大震災で揺れていた時間は 15 秒ほどですが、南海トラフ地震では 5 分間続くといわれています。

地震が発生の際、5 分間の揺れのなか、どのように身を守るかの訓練(シェイクアウト訓練)を行った後、『救護班』『設備班』などの班に分かれ、発災時の初動の動きを確認しました。

小田南地域包括支援センターの職員は『地域班』として、喜楽苑に来られた近隣の住民の方に指定避難所を案内する役をしました。

いざという時に備え、防災に対する意識を高めていきたいと思います。